家

学校評価特集号

令和５年３月１７日
京都市立岩倉南小学校
校　長 石 田 和 三

いきなりですが、こちらの２枚の写真、何をしているところだと思われますか？
これらは、今年の１月に行った教職員研修会の１コマです。「えっ！？　フープをくぐるのが研修？」と思った方もおられるかもしれませんね。もう少し詳しくお伝えします。

わたしたち教職員は、「自ら考え、行動する子」「思いやり、たがいの良さを認め合う子」の育成に向けて、日々の教育活動を行っています。その際、大切にしているのが、教職員同士の関係づくりです。お互いに安心して対話できる教職員集団であってこそ、よりよい教育活動を進めることができると考えているからです。
教職員の関係性を温めたり、安心して話せる雰囲気をつくったりしてから、対話を始める。このようなスタイルの研修会を、今年度は３回実施しました。下は各回の対話のテーマです。

１回目　「『自ら考え、行動する子』『思いやり、たがいの良さを認め合う子』って、具体的にはどんな姿？」
２回目　「『自ら考え、行動する子』『思いやり、たがいの良さを認め合う子』の実現に向けて、どんなことに取り組んでいる？」
３回目　「『自ら考え、行動する子』『思いやり、たがいの良さを認め合う子』の実現を妨げていること、めざす子どもの姿を見失っている活動、非効率なもの、改善の余地があるところはない？」

１月の研修会（３回目）は、一年間の教育活動の振り返りも込めています。
この特集号では、研修会を通して生まれた教職員の気付きや問題意識と、１２月末に行った保護者・子どもアンケートの結果をお伝えします。なお、先日の学校運営協議会理事会では、教育活動の振り返りに対して、このようなご意見をいただきました。

・子どもたちは楽しく学校に通っているようだ。もちろん、一人一人の子を見なければならないので一概には言えないが、子ども同士の関係が築けているからではないか。
・アンケート結果を見ると、肯定的な回答の割合が多い。満足度が高いのはよいことだ。ただし、割合でなく、「たのしくない」と感じている一人一人の子に寄り添うことを大事にしてほしい。
・タブレット端末を活用できるようにすることも大事。一方で、スマホやタブレットを離して、お互いの顔を見てコミュニケーションをとることの大切さを実感できるようにすることも大事。そういう時間を学校では大切にしてほしい。
・安全については１００％を目指したいが、果たして大人の交通ルールやマナーはどうだろうか。

こちらは、研修会を通しての教職員自身による教育活動の振り返りです。

【授業のあり方】
・一人一人の子どもに合った学び（「個別最適な学び」）の実現に向けて、教職員も学び続けたい。
・共に学ぶことの意味や意図、目的を子ども自身が理解できるようにしたい。
・「失敗を恐れずやってみる」という子どもたちの姿が、授業を通しても少しずつ見られるようになってきた。子どもたちの「やってみよう」「やってみたい」を引き出す授業をさらに目指す。

【宿題のあり方】
・全員が一律一斉に同じ課題をすることに対して、私たち自身も問い直したい。
・同じ学年でも学級によって、宿題の中身が異なることもある。学級の子どもたちに合わせて担任なりに考えてやっているが、保護者が、「どうして違うの？」と思うのもわかる。大切なのは、「宿題を揃える・揃えない」ということよりも、宿題に対する考え方を、教職員や保護者、子どもたちと共有することではないか。

【行事のあり方】
・今は、「何となく先生たちがやってくれる」という感じになっているので、子どもが活躍する場をつくりたい。「高学年＝年齢を重ねた」ではなく、「高学年＝みんなのためになるように、自分たちで考えたりやってみたりする経験を積み上げてきたこと」となるようにしたい。
・行事をつくりあげる中で、「やってもいいんだ」と子どもたち自身が思えるようになることが大事ではないか。その分、時間がかかるので、子どもたちにも時間の余裕があるとよい。
・運動会や音楽発表会を「自ら考えて行動する子」の育成につなげる取組にするためにも、「自分たちで考えてやった！」という子どもたちの実感を大事にしたい。
・保護者に見てもらうために、子どもに寄り添うことよりも完成度を重視してしまった。

【異学年交流・児童会活動】
・生活科での１、２年生の交流は価値がある。１年生のときは、２年生がつくったおもちゃでの遊びを楽しんでいて、「自分たちも２年生になったらこんなことができるのか」という期待や憧れが膨らんだ。そして、２年生になると張り切って活動する。今の２年生は、４年生とのたてわり活動も、同じようにたのしみにしている。
・いろいろな年齢の人がいるのが自然なので、ペア学年に限定せずに交流できるとよい。どの学年からもお互いに学ぶことはある。状況が許せば、１～６年生がいる中で交流したい。
・たてわりでの活動は、相手のことを知ろうと聴き合い、良さを認め合う子の育成になっていると思う。ペア学年との交流の機会を増やしていけるとよい。

【ルール】
・「自ら考えて行動する子」を育てるために、ルールをどのようにつくっていくか、また、ルールをつくっていくことを通してどのように子どもを育てるかを、教職員も学んでいく必要がある。
・ルールを守っている子、当たり前のことを当たり前にやっている子に光が当たるようにしたい。「ルールを守りましょう」という話を教室でしても、守っている子からしたら、「ちゃんとやっているのに・・・」となってしまう。当たり前にできている子が損することのないようにしたい。
・持ち物のルールについても、「自ら考えられるように」という視点で見直しが必要かもしれない。
・「ルールだから守る」でなく、「そもそも、このルールってあっている？」「このルールっておかしくない？」と考えた方がよい。今のルールが本当にふさわしいかどうか、教職員自身も考えてみるときではないか。

こちらは、１２月末に行った保護者・子どもアンケートの結果です。

(児)学校に来るのが楽しい。
(保)子どもは、楽しく学校に通っている。

(児)友だちのよいところを見つけている。
(保)子どもが他の子たちのよいところを認められるように、保護者もわが子や他の子たちのよいところに目を向けている。

(児)自分もみんなも楽しく過ごせるようにしている。
(保)子どもが自分の力を自分やみんなのために発揮できるように、背中を押している。

(児)自分から挨拶をしている。
(保)子どもが友だちや地域の人に進んで挨拶できるように、保護者も、子どもや地域の人に進んで挨拶をしている。

(児)疑問に思うことやもっと知りたいことを、自分から見つけている。
(保)疑問に思うことやもっと知りたいことを、子ども自身が見つけられるように、子どもの「なぜ？」を大切にしている。

(児)疑問に思うことやもっと知りたいことがあったら、自分から調べたり考えたりしている。
(保)疑問に思うことの解決に向けて、子ども自身が進め方を考えて、自分の力でやってみる機会をつくっている。

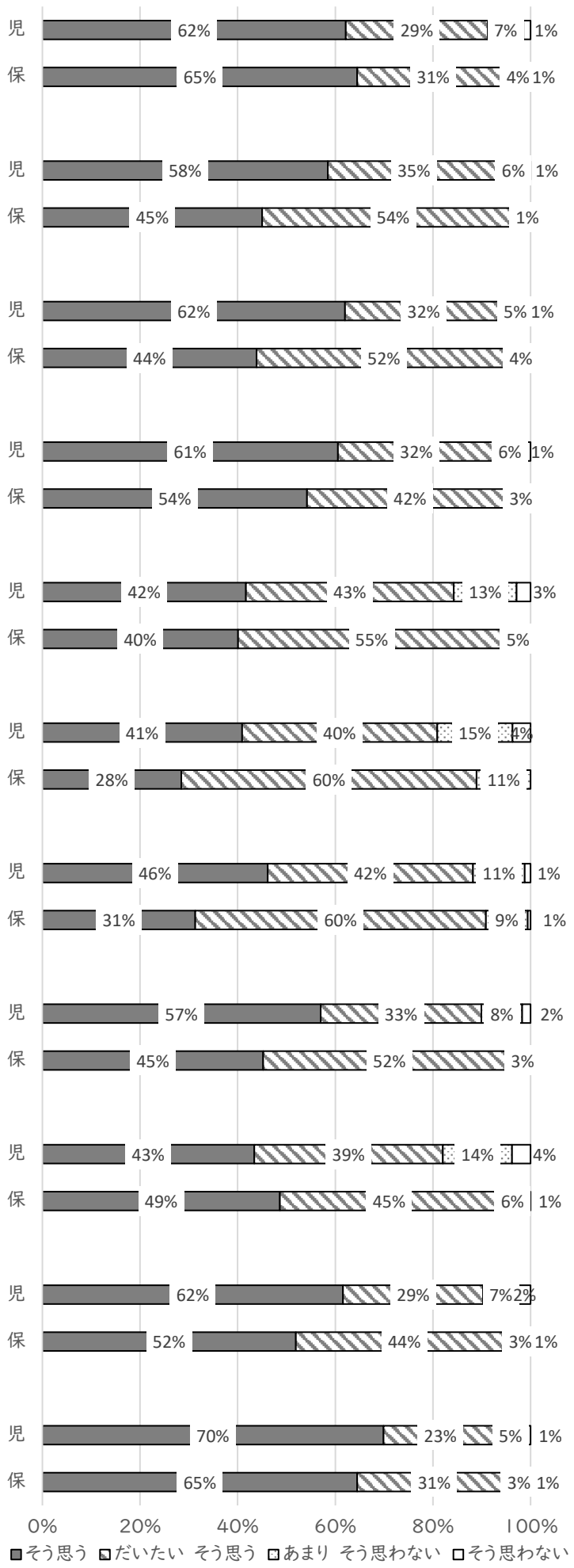
(児)学校で学んだことを、普段の生活につなげて考えようとしている。
(保)学校での学びが学校以外の場面でも活きるように、子どもと一緒に考えたり話したりしている。

(児)友だちと考えを伝え合おうとしている。
(保)子どもとコミュニケーションを図るときは、双方向のやりとりを意識している。

(児)早寝、早起き、朝ごはんなど、規則正しい生活を送っている。
(保)規則正しい生活づくりに、子どもと一緒に取り組んでいる。

(児)好き嫌いなく、給食を食べている。
(保)バランスのよい食事をとることができるように、家庭でも取り組んでいる。

(児)8時から8時25分の間に、交通ルールを守って登校している。
(保)登校時間（午前8時～8時25分）を守って安全に登校できるように、子どもを送り出したり交通ルールを身につけさせたりしている。



答えのない時代だからこそ、「自ら考え、判断し、行動すること」や「互いの良さを認め合うこと」は、より一層、重要性を増すと考えています。そして、それらの力は、経験を通してこそ身につくものだと考えています。「自ら考え、判断し、行動する経験」を積み重ねて「自ら考え、判断し、行動する力」がつき、「互いの良さを認め合う経験」を積み重ねて「互いの良さを認め合う力」がつくのです。そのような経験の積み重ねを通して、子どもたちに力がつくように、次年度の学校教育活動を構想していきたいと考えています。

アンケートの数値が１００％になることは、なかなかありません。傍から見れば「よくがんばっているなあ」と思う子でも、自分では「まだまだ」と考えて「あまりそう思わない」と回答するかもしれません。その反対もあります。ですから、このアンケートは達成度や実現度を測るというよりも、子どもたちも保護者の皆さんも、そしてわたしたち教職員も、このような視点で今の自分を振り返るという意味合いを込めています。

教職員からは、「一人ひとりに合わせた学び」をどのようにつくっていくか、一人ひとりが自分に合った学びを実現しながらも、「多様な他者とのゆるやかなつながりの中での学びをどうつくっていくか」、そこに、授業や行事、異学年での交流やルールメイキングをどのように組み合わせていくのか、ということへの問題意識が生まれました。
このような問題意識も、教育活動に活かしていきたいと考えています。

振り返りでは、「授業の準備や教職員自身の学びも重要であり、そのための時間をどうするか」という問いも生まれています。
教職員の勤務時間は８時半から１７時までです。そのような中で、「教職員が子どもと向き合う時間を確保し、いきいきとやりがいをもって働くことのできる環境をつくっていく」ために、保護者の皆様のご理解も得ながら教職員の働き方改革に取り組んでいるところです。
今年度は、欠席・連絡フォームの導入、メール配信や学校ホームページの活用、電話対応時間（８：００～１８：３０）の設定などで、随分業務時間の削減が図れました。ご協力ありがとうございました。
教職員の働き方改革の推進は、「質の高い教育活動の実践」「教職員一人一人の自己研鑽の時間の確保」「将来にわたる教職員の確保」といった教育の根幹に関わる課題解決につながります。そのためにどうするか。わたしたちも試行錯誤の途中ですが、今後も保護者の皆様のご理解、ご協力を得ながら進めてまいります。

一年間の振り返りを踏まえて、すぐに変わる部分もあるかもしれませんし、見た目にはすぐに変わらないこともあるかもしれません。ただ、答えのない時代を生きていく子どもたちと同様、わたしたち教職員も、絶対の答えはなくとも、最適解や納得解を求めて探求し続けていきたいと考えています。引き続き、保護者の皆様のご理解とご協力をいただきますと幸いです。

一年間、本校教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。
次年度も、どうぞ、よろしくお願いいたします。

京都はぐくみ憲章
～子どもを共に育む京都市民憲章～

わたくしたちは，
1 子どもの存在を尊重し，かけがえのない命を守ります。
1 子どもから信頼され，模範となる行動に努めます。
1 子どもを育む喜びを感じ，親も育ち学べる取組を進めます。
1 子どもが安らぎ育つ，家庭の生活習慣と家族の絆を大切にします。
1 子どもを見守り，人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
1 子どもを育む自然の恵みを大切にし，社会の環境づくりを優先します。